



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロット」

株式会社ロッテホールディングス
2026年6月10日(水)

埼玉県鶴ヶ島市、坂戸鶴ヶ島歯科医師会、ロッテ 「鶴ヶ島市民の歯と口の健康づくりの推進に関する連携協定」を締結

株式会社ロッテ(東京都新宿区 代表取締役社長執行役員:中島 英樹 以下 ロッテ)は2026年6月4日(木)に、鶴ヶ島市(埼玉県鶴ヶ島市 市長:小川 尋海)、坂戸鶴ヶ島歯科医師会(埼玉県坂戸市 会長:鬼丸 乙彦)と「鶴ヶ島市民の歯と口の健康づくりの推進に関する連携協定」を締結いたしました。ロッテの口腔に関する連携協定として29例目になります。

鶴ヶ島市民の口腔内環境の維持・改善により、健やかで豊かな人生を送れるために三者が連携・協働し、歯と口の健康づくり推進に取り組んでまいります。



2026年6月4日(木)鶴ヶ島市役所で実施された協定締結式の様子
(左から)ロッテ 小林 祐介、鶴ヶ島市 小川 尋海市長、坂戸鶴ヶ島歯科医師会 鬼丸 乙彦会長

●本協定の主な内容

1. 口腔機能や口腔ケアの普及啓発に関すること
2. 「噛むこと」の大切さの普及啓発に関すること
3. 口腔に関する事業への協力に関すること
4. 市民の口腔機能の調査に関すること
5. 災害時における物品提供等を含めた被災者支援に関すること
6. その他目的を達成するために必要な事項に関すること

*ロッテは、1948年の創業以来培ってきた「噛むこと」や「キシリトール」などを、様々なツールとして活用することで、鶴ヶ島市民の歯と口の健康づくりに貢献していきます。

⇒次のページに協定締結式の概要とロッテ 埼玉支店 支店長 小林 祐介のコメントを掲載しております。



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロッテ」

●協定締結式

1. 実施日 2026年6月4日(木)
2. 実施場所 鶴ヶ島市役所
3. 出席者 鶴ヶ島市 市長 小川 尋海
坂戸鶴ヶ島歯科医師会 会長 鬼丸 乙彦
ロッテ 埼玉支店 支店長 小林 祐介

●ロッテ 埼玉支店 小林 祐介コメント

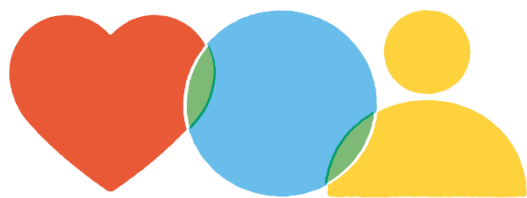
ロッテの社名は、ドイツの文豪ゲーテによる名作「若きウェルテルの悩み」の主人公が想いを寄せる「シャルロッテ」に由来します。多くの方に親しまれている「お口の恋人」というコーポレートメッセージには、「永遠の恋人」と言われるシャルロッテのように、いつまでも皆様から愛される存在でありたいという想いが込められています。

コーポレートメッセージ「お口の恋人」の通り、チューインガムの機能を通じて「お口の健康」をサポートし、皆様がいづまでも幸せに暮らせる未来を目指します。

今回、鶴ヶ島市の健康づくりの基本理念である「みんなで創ろう未来の自分～進んで守り、動き、つながる“健康イチバン”のまちへ～」を目指し、三者協定を締結しました。オーラルフレイル対策や、成人の方々を対象とした歯と口の健康啓発活動、幼児期の口腔機能の発達や歯の健康維持など、全年齢的な取り組みについて、ロッテ独自の強みや技術を活かし、皆様の健康づくりの推進に貢献したいと考えております。

当社のサステナビリティ目標「[ロッテ ミライチャレンジ 2048](#)」では、「噛むこと」による健康増進の普及を目標のひとつに掲げており、「噛むこと」と健康に関する研究と啓発活動を推進しています。また、キシリトールを用いた幼児期の歯の健康維持などの活動にも取り組んでいます。

さらには、鶴ヶ島市へ災害発生時の二次災害による健康被害軽減対策のため、口腔の健康を守るツールとしてキシリトール配合のガムやタブレットをご提供させていただくなど、物資提供等も含めた被災者支援に関しても実施してまいります。



ロッテ ミライ
チャレンジ 2048

創業100周年までに、未来のために実現したいこと

6つのマテリアリティと目標



心身の健康

持続可能な
調達

サーキュラー
エコノミー

脱炭素

社会とつながる

人財

2028年度目標

- 噛むことによる健康増進の普及に努め、咀嚼チェックガムによる咀嚼回数を年100万回以上に増やす

2038年度目標

- 噛むことによる健康増進が当たり前の社会を実現する
- 製品・サービスをウェルビーイングに貢献できるようアップデートさせる

2048年度目標

- ウェルビーイングに貢献する新たな製品、サービス、事業領域でしあわせな未来をつくる

参考資料 オーラルフレイルとは？

オーラルフレイルとは「お口のささいな衰え」のことを意味します。口腔機能のささいな衰えを放置したり、適切な対応を行わないままにしたりすると、栄養のバランスが崩れ、全身の衰えにつながると考えられており、“老化のはじまりを示す重要なサイン”として注目されています。

実際に、高齢者を対象に口腔機能をチェックし、継続的に調査をしたところ、オーラルフレイルの人は2年後の「身体的フレイル」、「サルコペニア」などの身体機能低下、そして4年後の「要介護認定」「死亡」のリスクが約2倍に高まるという結果※が報告されています。

※ 出典：Tanaka et al. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2018;73(12):1661-1667